

### 三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一一三

貴電第三七六号二閏シ

露国参加ノ提案アリタル際ハ同意セラレ差支ナキモ我ヨリ  
進ムテ提議スルコトハ差控ヘラレ度シ

尚本貴官限り内密ニ含ミ置カレ度キハ我陸軍側ニテハ陸軍  
軍縮ハ可成ク歐州問題トシテ取扱ヒ歐州諸國ノ軍備縮減ヲ  
容易ナラシムルニ努ムヘキモ我方ヨリ本問題ニ付積極的態

度ニ出ツルコトハ之ヲ避ケ度キ方針ナルヲ以テ露国ヲ會議  
ニ引入ルルコトカ右ノ趣旨ニ適合スル場合ニハ同意シ差支  
ナキモ我方ヨリ進ムテ露国参加ヲ提議スルニ於テハ偶々現  
在ノ露国ト相對的ニ我陸軍軍縮ヲモ辞セサルカ如キ感触ヲ  
与フルノ惧アルニ付キ差控ヘタシトノ意向ナリ

## 事項四 日仏通商航海条約改定交渉

### — インドシナ関税問題 —

一二四 二月十日

在仏国石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

インドシナニ於イテ日本商人及ビ船舶ニ与ヘ

得ベキ保障ニ關スル仏国側覚書ノ件

第三八号 （二月十一日接受）

客年往電第四〇二号ニ關シソノ後ノ経過左ノ通り

(一) 同電所報ノ通印支ニ於テ日本ノ商人及ビ船舶ニ与ヘ得ヘ  
キ保障ニ關シ詳細ノ覚書ヲ本使ニ送付スル様外相ヨリ  
「セルユイス」ニ命シタルニ付キソノ送付ヲ待チ居タルニ  
十二月十七日付ヲ以テ「仏政府ハ印支ニ於テ日本ノ經濟  
発展ニ便宜ヲ与ヘントシ幾多ノ讓歩ヲナシ關稅問題ヲ先  
協議セントセル处在東京代理大使報告ニ依レハ日本政府  
ハ右提案ヲ承諾セルカ如シ仏政府ハ就中ソノ既ニ廢棄ヲ  
声明セル日仏通商條約ヲ印支ニ拡張シ得ス只貴大使再三  
ノ申出ヲ斟酌シ且ツ日本當業者カ關稅低減ニ伴ヒ当然期  
待スヘキ商業發展ニ対シ公正ナル保障ヲ与ヘント欲シ仏

(二) 依而本使ハ直ニ「ベルトロー」氏三面会シ右書翰ノ外ニ  
過日午餐会ノ際約束セラレタル「セルユイス」氏ノ詳細  
ナル書付ノ送付有ル事ト思フカ如何ト尋ネタルニ同氏ハ  
早速「セルユイス」ニ問合スヘシト約シタルカ其ノ後何  
等ノ音沙汰無シ然ルニ会々一月末ニ至リ商務大臣官房局  
長「アデル」氏來訪ノ際右ノ事情ヲ説明セル處同氏ハ  
「セルユイス」ハ既ニソノ意見ヲ詳細外務省ニ通報シ同  
省ヨリ之ヲ本使ニ取次キタル事ト信シ居ル旨ヲ答ヘ恰モ  
仏當局ハ前掲書翰ニテ事濟ミト考ヘ居ル如キ感想ヲ与ヘ  
タリ

(三) 次テ本月六日「アデル」氏再ヒ來訪本使限り内密ニ含ミ  
トシテ當時商務省ヨリ外務省ニ送レル公文ノ一部ヲ読ミ

四 日仏通商航海條約改定交渉 一二四

一一三

聞セタルカソノ要旨ハ「入国後ノ日本人ニ対シテハ第三國人ト均等ノ待遇ヲ与フヘキモ内国人待遇ヲ与ヘ得ス又支那暹羅等ノ接境國人民ノ享有スル待遇ニモ均霑セシメ得ス日本船舶ニハ埠頭税等凡テニ付キ第三國船舶ト均等ノ取扱ヲナス」ト言フニアリ畢竟日仏通商条約ヲソノ儘十分ニ適用シ得スト言フハ同条約ニアル如キ内国人待遇ノ保障ハ印支ニ於テ与ヘ得サル為及ヒ日本移民ノ襲来ヲ恐ルル一部ノ感情ヲ無視スルハ政府ノ不可能トスル処ナリト付言セリ

一一五 二月十日 在仏國石井大使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

#### インドシナ税率問題討議ニハ入國自由ノ問題

ニ言及セザルヲ得策ト認メラル旨意見申進

ノ件

第三九号

（二月十一日接受）

一一六 二月十日 在仏國石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

#### インドシナ問題ニ関シ税率問題先決主義ノ事

情請訓ノ件

第四〇号

（二月十一日接受）

往電第三八号ノ〔〕ニ関シ

印支ニ於テハ日本人ニ内国人待遇ヲ与ヘ得スト言フノ外尚日本人ニ対シ無制限ノ入國自由ヲ保障シ得サルハ日仏条約ヲソノ儘同地ニ適用シ得ストナスノ大原因ナル如ク「アデ

元來本使ハ予テ御訓令ノ趣旨ヲ体シ本件商議ニ際シテハ單ニ關稅低減ノミヲ得ルモ他ノ事項ヲ除外セハ我經濟發展ノ目的ヲ貫徹シ得サルヲ信シ最初ハ印支條約加入問題ヲ主張シ次テ加入不可能ナラハセメテ我當業者ノ入國居住營業及船舶ノ入港等ニ關スル保障タケニテモ諸特殊問題ト平行審議シ同時ニ解決セント努力シタル次第ハ客年往電第二九八号及四〇二号冒頭ニテ御承知ノ通ナルカ仏當局ハ右会談ノ際ニモ亦前掲往電第三八号(1)ノ公文中ニモ在京代理大使報告ニ依レハ日本政府ハ税率問題先決ノ主義ヲ承諾セリト言ヒヲレルカ本使参考迄ニ右事情御回電請フ

一一七 二月二十七日 在仏國石井大使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

#### 税率問題先決主義ヲ承諾シタルコトナキ旨回答及ビ協定ノ形式等条約一般ノ交渉方針訓令

ノ件

第四二号

貴電第三八号乃至第四〇号ニ関シ

一、当方ニ於テハ代理大使ニ対シ税率問題ノ先決主義ヲ承諾シタル覺ナシ当方ニ於テハ *établissement* 及 navigation

ル」ノ説明ニ依レハ仏當局及ヒ植民地關係者ヲ通シ印支ニ對スル日本移民ノ危險ヲ恐ルル疑念ハ容易ニ拔キ難キ現状ニテ到底之ヲ説得シ得ストノ事ナリ  
依而本使ノ考ニテハ今回税率問題ヲ議スルト同時ニ日本當業者ノ印支ニ於ケル居住營業等ニ付キ相当ノ保障ヲ取付ケ得ル以上ハ入國自由ノ問題ニハ言及セサルヲ得策ト認ム日本ヨリ所謂移民ヲ送ル意向ナラハ本件商議ハ断絶外無シ移民ヲ送ラサル以上ハ單ニ入國後ノ營業ニ付キ便宜ヲ得レハ足レリ又之丈ハ税率低減ト同時ニ必ス取付ケルモ可ナルカ或ハ仏國側ヨリ一方的ニ声明シ得ヘント思考ス就テハ入國問題ニ言及セサル事及ヒ取極ヲ相互的トスヘキヤ否ヤノ点ニ付キ折返シ何分ノ儀御回示ヲ請フ

往電第三八号ニ関シ

第四〇号

（二月十一日接受）

一一六 二月十日 在仏國石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

印度シナ問題ニ関シ税率問題先決主義ノ事

情請訓ノ件

第四一號

（二月十一日接受）

往電第三八号ニ關シ

ノ問題ニ付先方カ我主張ニ容易ニ同意セサルニ於テハ審議ノ都合上此問題ヲ暫ク懸案トシ置キ不取敢關稅問題ノ審議ニ入ルノ外ナシト認メ此趣旨ヲ客年十月中係官ヨリ一両回客年往電第二六五号ノ通代理大使ニ告ケタルコトアルモ素ヨリ当方ニ於テハ前記 *établissement* 及 navigation ノ問題ニ關スル先方ノ主張ニ服シ又ハ此問題ノ解決ヲ将来ニ遺スノ所存ニテハナカリシ次第ナリ猶出淵次官ヨリ同代理大使ニ就キ本国政府ヘノ報告ノ内容ヲ確カメタル處右ハ両者ヲ *separately* ニ商議スルコトニ付日本政府ニ異存ナシトノ趣旨ナリシ由ナリ

二、先方ニ於テ我方当初ノ提案タル條約加入ノ問題又ハ印度支那ニ關シ條約ニ普通規定セラルル諸般ノ事項ニ付特別ノ條約ヲ締結スルコトニ甚タシキ異議アル以上此上我ニ於テ固執スルモ却テ大局上面白カラサルニ付入國ノ問題ニ付テハ此際触ルルコトナク客年往電第二五七号末段ノ趣旨ニ依リ *établissement* (生業、職業、商業、産業) 及 navigation

ニ關シ印支ト特別ノ關係アル接壤國（支那暹羅等）以外ノ最惠國ノ待遇ヲ約スルノ程度ニ於テ妥結スルコトシ差支ナシ

四 日仏通商航海条約改定交渉 一一八 一二九

一三六

尤モ右 établissement の問題ニ関スル最惠国待遇ハ当方譲歩ノ極限ナルニ付先方ニ於テ特ニ支障ナキモノニ付テハ出来得ル限り我ニ対シ内国民待遇ヲ付与セムコトヲ切望スル次第ナリ

三、本件ハ客年春以来我民間ニ於テ速ニ具体的の協定ノ成立ヲ切望シ居ル事情ニ鑑ミ此際右二ノ趣旨ヲ以テ速ニ関税問題ト平行シ商議ヲ行フコトニ申入レラレ度ク協定ノ形式ニ付テハ当方ニ於テハ相互的協定ニ依リタキ次第ナルカ若シ宣言トスル場合現行印支ニ關スル宣言ノ形式ナルニ於テハ差支ナキモ単ニ仏國ノ一方的宣言ナルニ於テハ同意困難ナリ尤モ本件協定ニ関シ先方議会ノ大勢カ通過ヲ困難ナラシムルカ如キ事情ナルニ於テハ不得已一方的宣言ニ付テモ考慮セサルヘカラサル次第ナルカ右ニ関シ御意見承知シタシ

四、対償問題ニ付テハ客年往電第二〇九号五ノ通ナルカ之力考慮ハ日仏本條約改締交渉ノ際ニ行フコトヲ必要トス蓋シ本協定ノ際仏本国品ニ仮ニ対償ヲ与フルモ右本條約改締ノ際ハ更ニ対償ヲ要求セラルコトアルヘク又其ノ際先方要求ノ程度如何ニ依リテハ今次ノ交渉ニ当リ解決困難ナルヘキ問題ヲモ場合ニ依リ持出シ得ヘキカ故ナリ就テハ本問

印支ニ關スル日仏交渉來ル十七日再開ノ答

一一〇 四月十二日 勝原外務大臣ヨリ  
在仏國石井大使宛 (電報)

本件解決ニ好意的ナブリアンガ内閣ヲ組織シ  
オル際ニ交渉促進ニ尽力方要請ノ件

第九五号

印支問題ニ關スル貴方ノ御尽力ニ対シテハ本大臣ノ深ク多  
トスル處ナルカ仏國現下ノ政情ニ鑑ミ何時又内閣ノ瓦解ヲ  
見ルヤモ知レサルニ付本件解決ニ好意ヲ有シ居ル「ブリア  
ン」カ内閣ヲ組織シ居ル此機ニ於テ本件交渉ヲ速ニ結了ス  
ルコトニ致度ク就テハ此上トモ更ニ貴方御尽力ヲ望ミタシ

一一一 四月十四日 在仏國石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛

ハノイ商業會議所名譽会頭グラヴィツツノ曰  
本・インドシナ關係談報告ノ件

公第二六四号

大正十五年四月十四日

在仏

四 日仏通商航海条約改定交渉 一一〇 一一一

題ニ付テハ右ノ趣旨ニテ応對セラレタシ

一一八 三月八日 在ジユネーヴ (出張中) 石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛 (電報)

石井大使ヨリブリアン首相兼外相ニインドン  
ナ問題ニツキ配慮方要請ノ件

(三月九日接受) 第七号

五日本使巴里出発後ニ内閣辞職トナリタルニ付本使ハ七日  
「ブリアン」ニ面会シテ挨拶ヲ述へ併セテ之レカ為メ印度  
支那問題カ又復延期トナラサル様配慮方ヲ頼メルニ「ブ」  
氏ハ目下ノ事情ハ自分ノ内閣改造ヲ便トセス但シ後内閣  
ニテ強テト云ヘハ外相ニ留任スルモ可ナリサモナキ場合ニ  
於テモ外務属僚ハ勿論後任者ニ能ク事務ヲ引継キタル上自  
分ハ日印問題ノ進捗スル様監視ヲ怠ラサルヘシト語レリ  
仏ヘ転電シ英、白、独、伊ヘ暗送セリ

一一九 四月十日 在仏國石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛 (電報)

日仏交渉再開期日報告ノ件

第一二四号

(四月十一日接受)

（三月九日接受）

凡ソ日本ト印度支那トノ通商關係ニ付テハ先日本側要求ノ範囲並仏國側ニ於テ讓歩シ得ヘキ限度ヲ知悉セサルヘカラス抑々印度支那ニ於ケル輸入貿易ノ大勢ヲ見ルニ一千九百二十三年度ノ統計ニ依レハ其五〇・〇二「パーセント」ハ仏國ニ四九・九八「パーセント」ハ之ヲ外国ニ仰キタルノ情況ニ在リ且仏國以外ヨリ輸入品ノ大部分ハ支那産品ヲ除キ最低税率ノ約四倍ニ當ル一般輸入税ヲ課セラルル處印度支那カ此ノ負担ヲ忍フハ右外国輸入品カ印度支那ニ於テ絶対ニ必要ナルカ為メナルコトハ之ヲ知ルニ難カラサルヘシ抑々印度支那カ其ノ領域内ニ產セス且之ヲ仏國ヨリノ輸入ニ仰クコトヲ得サル商品ヲ外国ニ需ムルハ蓋シ當然ノ事ニシ

特命全權大使子爵 石井 菊次郎 (印)

一三七

テ之力為仏本国並其ノ植民地ノ利益カ沮害セラルモノト  
解スルノ理由無シ從ツテ今日本カ仏本国並其植民地ノ産業  
ト競争的地位ニ立タサル商品ニ対シ一般税率ノ適用免除ヲ  
希望スルニ際シ之ヲ峻拒スルハ全然謂ハレ無シト信スルモ  
ノナリ坊間ノ風説ニ依レハ日印支特派使節交換ニ際シ仏國  
カ日本ニ對シテ異常ノ讓歩ヲ為シタルヤニ臆説ヲ逞シクセ  
ルモ右特使ハ何等斯ノ如キ権限ヲ有セス單ニ本問題ニ関ス  
ル商議ノ一端ヲ開始セルニ過キス且日本商品中仏本国ノ商  
業上並産業上ノ利益ト抵触セサル範囲ニ於テ日本ノ希望ス  
ル税率ヲ課シ得ヘキ品目ヲ研究セルニ過キス日本側ノ印度  
支那訪問モ亦此ノ軌ヲ出テサリシモノナリ次イテ印度支那  
商業會議所ニ於テハ日本ノ希望スル所ニ隨ヒ税率改正ヲ行  
フノ余地アリヤ否ヤニ就キ研究ヲ為シ且一般税率ト最低税率  
トノ中間タルヘキ税率ニ閑スル一案ヲ建議シタリスノ如  
クシテ今ヤ本問題ノ帰趨ハニ議会ノ意図如何ニ係ルモ熟  
悉惟フニ日本ハ印度支那ヨリ年額百五十万噸ノ米ヲ始トシ  
石炭鉱石等ノ物資ヲ輸入シ其額亦決シテ尠カラス然ルニ今  
ニシテ印度支那カ日本ヨリ物資ヲ購買セサルカ如キ挙ニ出  
テンカ印度支那ノ対外為替ニ及ホス影響決シテ些少ナラサ

## 本信写送付先 在海防及在西貢領事

一三二 四月十七日

在仏国石井大使  
幣原外務大臣宛（電報）

## フランス外務省ニ於テ開催セラレタル日仏通

## 商會議ノ審議内容報告ノ件

第一三二号

（四月十八日接受）

日仏通商會議十七日外務省ニテ開催本使松島三谷本野ト共  
ニ出席先方ハ商務大臣ヲ初メ「セルユイス」「アデール」  
「キルシェー」其他外務及殖民省員等多數出席ス

先ツ商務大臣ヨリ交渉ノ経過ヲ述ヘ要スルニ「今回ノ締結  
スヘキ条約ハ日印關稅條約トシ」右条約ニ入国後ノ日本人  
ノ居住營業航海ニ關スル保障ノ規定ヲ加フルコトニ付テハ  
異議ナク只仏國側ハ印支ニ於テ日本ニ与フル利益ノ対償ト

シテ（a）仏本国通商ニ關シ本國トノ條約締結ニ際シ利益  
ヲ与フル事ニ付今日ヨリ確約assuranceヲ得タク（b）新  
一般條約締結ニ到ル迄本邦現行關稅ヲ増加セサル事トセラ  
レタシト述ヘ「セルユイス」更ニ（a）（b）ノ二点ヲ敷  
衍シテ主張セルニ對シ本官ハ關稅ニ關シ本邦從來ノ主張タ  
ル最惠國主義ヲ捨ツルハ極メテ重大ナル理由アルニ非レハ

ルヘシ然モ諸外國就中日本ヨリ印度支那カ購入スル物資ハ  
仏國ニ於テ供給スル事ヲ得サルモノナルニ依リ右ニ對スル  
關稅ノ障壁ヲ低減スル事ハ惹イテ印度支那全般ノ購買力ヲ  
增加スル所以ト為リ結局仏國ノ利益ニ帰着スル事明カナル  
ヲ察知セサルヘカラス又往々日印支關係ハ日本ノ植民問題  
ニ関連シテ寧仏國植民政策上不利益ヲ招来スルニ至ルヘシ  
ト説クモノ有ルモ斯ノ如キ浮説ハ固ヨリ採ルニ足ラス蓋シ  
日本ノ要求ハ決シテ印度支那ニ於ケル企業権ノ獲得ニ非ス  
況シヤ印度支那ノ氣候風土カ日本ノ植民ニ適セサルコト天  
下周知ノ事実ナルニ於テオヤ日本ノ要望スル所ハ單ニ印度  
支那富源開發ヲ目的トスル日仏合同ノ企業團体ヲ組織セン  
トスルニ在リ右企業團体ノ組織ニ就テハ固ヨリ千八百六十  
七年法ノ適用ヲ見ルヘク即事業幹部中ニハ常ニ仏国人ノ  
「マジョリティー」ヲ存セサルヘカラス要スルニ本問題ニ  
関スル日本ノ要求ハ結局仏國ノ利益トナルヘキモノナリ仍  
ホ東京ニ於ケル經濟的開發ノ実情ハ頗ル良好ニシテ其富ハ  
之ヲ期シテ待ツヘキノミナラス其政情ニ就イテ見ルモ頗ル  
安定シ支那動亂ノ如キ余波全ク之ニ及ハス施政宜シキヲ得  
テ嚴乎タル平和ノ存スル事ハ疑フノ余地ナシ云々

日本輿論ノ許ササル所ナルニ拘ハラス今回提案ニテ之ヲ捨  
テル事又本邦ノ利害ニ對スル対償ハ之ヲ印支ノ多數輸出品  
ニ与フヘキ事將又仏本国ノ輸出品ニ對シテモ新條約運用ノ  
結果本邦ノミ一方的ニ利得スルコトアラハ仏國側要求ヲ審  
議スヘキ事ヲ述ヘ又印支加入問題ハ此際主張セス居住航海  
ニ關スル提案ノ基礎ニテ討議スヘシト答ヘタルニ「セルユ  
イス」ハ仏本国通商ニ與フル利益ノ確約ニ閑シ仏側ハ確約  
ヲ調査スルモノニハ非ルモ條約締結ニ際シ本國ノ得ヘキ利  
益ニ関シ何等保障ヲ得ルニ非レハ仏議會又輿論ニ對シ説明  
ノ途ナシト主張セルニ依リ  
本使ハ現在日本カ印支ヨリ輸入スル処ハ其印支ニ輸出スル  
処ニ遙ニ勝リ新條約ノ結果如何ナル利益ヲ得ヘキヤ更ニ不  
明ナル今日ヨリスル本件ハ留保シテ關稅案審議ヲ進ムルコトシ  
ルカ要スルニ本件ハ留保シテ關稅案審議ヲ進ムルコトシ  
客年九月貴信通一機密第二一号ニ基キ作成セル當方要求書  
ヲ提出シタリ仏本国ニ與フヘキ利益ニ閑シテハ先方ニ於テ  
日印貿易ニ關シ満足ナル讓歩ヲ為スニ於テハ我方ニ於テモ  
結局アル程度ノ満足ヲ與フルコト已ムヲ得サルヤノ印象ヲ  
得タリ現行關稅不增加ノ件ニ付テハ本使ハ右ハ一般政策上

四 日仏通商航海条約改定交渉 一三三

一四〇

ノ問題ニテ約束不可能ナルコト曩ニ首相及商務大臣等ニ説明シ置キタル通ニシテ仏國ニ於テモ最近関税増徴ヲ決行シタルニ非ヤト言ヘルニ先方ハ此ノ点ニ闇シテハ余リ主張セサリシモ日本側ノ関税増加ハ自然本件交渉ニ影響スヘシト答ヘタリ

又居住航海ノ問題ニ闇シテハ特殊隣接国ニ対スル利害ヲ除ク最惠国待遇ヲ与フルコトニ異議ナキコトヲ確メタリ

次回会合ハ本邦提案審議ニ時日ヲ要スルニ付來月中旬頃トシタシト先方ヨリ申出タリ

一三三 四月十九日 在ハイフォン管領事ヨリ  
幣原外務大臣宛 通送機密第六〇号

ヴァレンヌ・インドシナ総督トノ会談ニ闇ス  
ル件

(四月二十九日接受)

大正十五年四月十九日

在海防 領事 菅 和三郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
「ヴァレンヌ」総督トノ会談ニ闇スル件

話頭ヲ転シ本邦実業家中ニハ日仏間ノ経済上ノ接近ヲ実現セムカ為印度支那ニ有望ナル事業アラハ之ニ投資参加(Participation)シ度キ希望ヲ有スルモノアリト述ヘタル

ニ總督ハ(“pashostile non plus”)(<sup>ヤ</sup>亦反対ナラス)寧ロ

外資輸入ニヨリ当領ノ開発ヲ促進スルコトヲ得ハ當領ノ幸福ナリト言下ニ答フ仍而右実現ノタメニハ現行印度支那法

制中不便ナルモノアルカ如シト洩シタルニ總督ハ直チニ一

九二五年二月四日付總督令(客年四月二日付通送第三九号参照)ニ思ヒ至リタルモノノ如ク仏人側ニ取締役会ノ多数

支配權(Direction)ノ留保ヲ規定スルモノアルモ(“Il y a de marge encore”) (尚ホ余地アリ)ト確信ス而テ

語ヲ改メ日本ニ於テ尚ホ外国人ニ土地所有權ヲ認メサルコトハ本件反対論者即仏國印度支那投資團ニ日本人ノ印度支那投資ニ反対ノ口実ヲ与ヘ居ル次第ニ付之モ日本政府ニ於テ充分考慮セラルル様希望スル旨付言ス

終リニ本官ヨリ總督ノ帰仏ヲ機会トシテ巴里在住印度支那企業團ニ對シ總督ノ對日所見ヲ十分御説示アリタキ旨ヲ申述ヘ總督之ヲ諾シ会談ヲ終レリ  
右報告申進ス

四 日仏通商航海条約改定交渉 一三四

「ヴァレンヌ」總督ハ来ル四月二十五日河内出発西貢ニ向

ヒ十月帰仏ノ途ニ就ク迄西貢又ハ Dalat ニ滯在ノ予定ナルニ付四月十六日河内總督府ニ總督ヲ往訪ス

劈頭總督ヨリ巴里交渉ニ就キ何等公報ニ接セスヤトノ質問アリタルニ依リ新聞電報ニテ最近交渉ノ再開セラルヘキ旨ヲ承知シタルカ「ボーレル」稅務局長代理ヨリハ仏國ヨリ帰来シタル者ノ情報ニ徴スレハ来ル九月ニハ交渉成立ノ見込ナル旨談話アリタリト応フ總督ハ九月終了トハ隨分時日ヲ要スルコトナリ尤モ當領代表者タル「キルシェー」稅務局長ニ対シ帰任時期ヲ問合セタルモ未タニ回報無キ次第ナリ

ト付言ス次テ總督ハ十四日南定(Nam-Dinh)紡績工場ヲ視察シタル處仏本国綿業者同様日本綿業者ノ dumping ニ対シ余程神經ヲ惱シ居タリ綿製品ニ対スル日本ノ主張サヘ緩和セハ税率協定反対論ハ忽チ neutralise セラルヘシト述

フ仍而歐州大戰以来輸入原綿ノ高騰勞銀ノ値上等ニ依リ日本綿業者モ決シテ特殊ノ生産条件ヲ恵マレ居ル次ニ非ス又現在各方面ノ輸出ニ闇シテモ何等 dumping ノ形跡無シ

ト応ヘタル処兎ニ角右ノ意見ハ本国政府ニ伝達アリ度シ自分ヨリモ「クローデル」大使ニ申送ル所存ナリト繰返ヘス

一三四 五月二十一日 幣原外務大臣ヨリ  
在仏國石井大使宛 通一機密第九三号

インドシナ条約問題ニ闇スル今後ノ方針松島書記官ニ付テ

付屬書 仏領印度支那條約問題ニ闇スル今後ノ方針ニ付テ

本問題ニ闇スル今後ノ方針別紙ノ通松島書記官フシテ携行セシムルニ付御閱悉相成度此段申進ス

(付屬書)

本信写送付先 在仏石井大使 在西貢寺島領事

本問題ニ闇スル今後ノ方針別紙ノ通松島書記官フシテ携行セシムルニ付御閱悉相成度此段申進ス  
通一機密第九三号  
仏領印度支那條約問題ニ闇スル今後ノ方針ニ付テ  
当初我方ニ於テハ仏領印度支那ニ闇スル條約關係設定ノ問題ヲ日仏條約ノ改訂ト同時ニ商議シ且改訂セラレタル條約ニ同領ヲ加入セシムルノ方針ヲ以テ交渉ヲ開始シタリ蓋シ改訂セラルヘキ日仏條約ハ印度支那ニ闇シ我希望スル事項ヲ殆ント全部網羅シ居(入国、居住、産業、航海、関税ニ闇スル國民又ハ最惠國待遇ヲ規定ス)ルコト、加入ノ

一四一

形式ニ依レハ速ニ印支問題ヲ解決シ得ルコト及印支問題ノ  
商議ヲ後日ニ逕延セラルヲ防止シ得ルコトノ利益アルカ  
為ナリ故ニ我根本ノ方針ハ印支問題ト日仏本国間ノ条約問  
題トヲ不可分トスルコトニ存シタリ

然ニ仏國側ニ於テハ日仏本国間ノ条約改訂ニ関シテハ猶研  
究ヲ要スト為シ差当リ印支問題ヲ先議スルニ異議ナキ態度  
ヲ示シタリ我方ニ於テ前記印支問題ト本国間ノ条約問題ト  
ヲ不可分トスル方針ハ印支問題ノ解決ヲ後日ニ遺サルルコ  
トヲ最モ惧レタルニ存スルヲ以テ之ヲ先議スルコトニハ何  
等異存アルヘキ筈ナク仍テ客年十月以來日仏本国間ノ条約  
問題商議ニハ入ラスシテ印支問題ノ商議ニ着手シタル次第  
ナルカ不幸ニシテ數次仏国内閣ノ更迭アリ交渉進行摶タシ  
カラス若シ此際何等速ニ商議ヲ進メ妥結ヲ見ルノ方針ニ出  
ツルニアラサレハ再ヒ過去ノ轍ヲ踏ミ未解決ノ儘ニ終ハル  
コトナキヲ保セス就テハ左記方針ニ依リ本件交渉ヲ促進ス  
ルコト可然

#### 一、入国、旅行、居住、営業、航海ニ関スル待遇

日仏条約ニ於テハ入国ノ自由、旅行、居住ニ関スル内国  
待遇、産業、生業、職業等ニ関スル最惠国待遇、開港地往

却セラルル次第ナルニ付斯ノ如キ場合ハ改メテ我態度  
ヲ決定スヘキコト  
(回)旅行、居住、営業（産業、商業、製造業、生業、職業  
ヲ含ム）ニ関シテハ先方ニ於テハ最惠国待遇ノ保障ヲ  
与ヘムトスル意向ナルカ如キ處之等ノ事項ニ付テモ或  
ルモノニ付テハ内国待遇ヲ保障スルヲ当然トスルモノ  
アルモ速ニ妥結ヲ遂クルノ趣旨ニテ最惠国待遇ニ満足  
シ差支ナキコト

尤モ印支ト支那人トノ特別ノ歴史的關係ニ鑑ミ支那人  
ニ対スル待遇ニ均霑セサルモ差支ナキコト  
(回)航海ニ付テモ先方ハ最惠国待遇以上ノ保障ヲ与ヘサル  
意向ナルカ(回)同様此ノ程度ニ満足シ差支ナキコト  
尤モ沿岸貿易ニ關スル最惠国待遇ハ相互条件トスルコ  
ト

#### 二、関税ニ関スル待遇

(回)当初我方ノ方針ハ凡テノ貨物ニ最惠国待遇ノ保障ヲ得  
ムトスルニアリシモ之力保障ノ交渉ハ仏國ニ於テ一般  
的ニ最惠国待遇ノ交換ヲ為ササル主義ヲ採リ居レル関  
係上到底我本来ノ方針ニテ進ムコトヲ得ス尚又先方ニ

來ノ自由ニ關スル最惠国待遇、船舶貨物ニ關スル内国待  
遇、船舶ノ繫留及貨物ノ積卸ニ關スル内国待遇、船舶ノ  
頓稅ニ關スル内国待遇又ハ最惠国待遇、沿岸貿易ニ關ス  
ル最惠国待遇、定期郵便運送船ニ關スル最惠国待遇ヲ規  
定ス從テ我方ニ於テハ少クトモ印支ニ關シテハ右程度ノ  
保障ヲ確保シ度キ希望ナルカ先方ニ於テハ先ツ  
(回)入国保障ヲ與フルコトヲ肯セス右ハ我移民ノ渡航ヲ恐  
ルルヲ主タル原因ト考ヘラル然ニ居住、旅行、営業ノ  
保障ヲ確保スルモ入国ノ保障ナキ限り右ノ保障ハ実益  
ナキコトトナルニ付少クトモ商業、製造業及産業（「イ  
ンダストリー」）ニ從事スルモノノ入国ノ保障ヲ取付  
クルコト必要ナリ而シテ之カ保障ノ方法トシテハ移民  
ヲ除外スルコトニ付條約中ニ「商業及工業ニ從事スル為ノ  
入国ノ自由アルヘキコト」ヲ明定スルコト尤モ右保障  
ノ形式ニ付テハ先方ノ主張如何ニ依リテハ必シシモ條  
約中ニ之ヲ記入スルコトヲ要セス議事録等ニ記載スル  
コトトスルモ差支ナシ若シ先方ニ於テ此程度ノ保障ニ  
モ同意セサルトキハ條約締結ヨリ生スル価値ハ大半沒  
リ

(回)右ノ如ク先方ノ主義及主張ノ關係上我年来ノ關稅ニ關  
スル最惠国待遇交換ノ主義ヲ印支ニ關スル限り貫徹シ  
得サルハ頗ル遺憾トスル所ナルカ之カ為他國トノ條約  
交渉ニ累ヲ及ホスカ如キコトアルニ於テハ甚々面白カ  
ラサルニ付協定品目以外ノモノニ付テハ先ツ一般的ニ  
最惠国待遇ヲ主張シ妥結ヲ見サルトキハ「協定シタル

品目以外の物品ニ付テモ必要アルトキハ之ニ適用セラルヘキ税率ニ付隨時両国ノ間ニ商議ヲ開始シ得」ル趣旨ノ一条項ヲ双務的約款トシテ出来得ル限り協定スルニ努ムルコト

### 三、仏國ニ対スル対償問題

(イ)右印支ニ於ケル待遇ニ關シ先方ニ就テハ本国品ニ対スル税率輕減ヲ要求スルノ意向ナル所元來印支ニ於ケル我要求スル待遇ノ程度ハ最惠国待遇以上ニ出テサルモノニテ仏本国品ニ対シテハ我ニ於テ已ニ最惠国待遇ヲ付与セルニ付特ニ税率輕減ヲ約スルカ如キハ面白カラス且又右先方ノ要求ハ相當懸引ノ存スル所ト考ヘラルニ付之カ要求ヲ却ケ得ト考フルモ若干品目ニ付税率ノ引下ヲ考量スルニ非レハ到底交渉妥結ノ望ナキ場合ニ至ラハ印支問題妥結ノ方法トシテ「日本側ハ仏本国トノ条約改訂ニ際シ或種仏本国ノ生産品ニ対シ印支ニ於テ受クル我生産品ノ待遇ヲ考量シタル上関税ノ輕減ヲ考慮ス」ヘシナル趣旨ノ公文ヲ先方ニ与ヘ差支ナキコト尤モ右ノ趣旨ヲ條約中ニ記入スルコトハ之ヲ避クヘキコト

### 成ニ努ムルコト

尤モ通過税ニ關シテハ最低率ノ適用ヲ受クヘキ保障ヲ取付クルコト及日仏人合弁事業ニ付テハ條約以外ニ先方ニ於テ之ヲ歓迎スル趣旨ノ諒解ヲ遂クルコトニ努ムルコト

### 五、印支ニ關スル条約ノ形式

(イ)先方ニ於テハ今次作ルヘキ條約ヲ關稅條約トスル意向ナルカ前記一及二ヲ一括條約中ニ規定シ關稅ニ關スルモノト其ノ他ノ事項トヲ別約トセサルコト

(ロ)宣言ノ形式ニ依ルコト差支ナキモ明治四十年六月十日巴里ニ於テ調印シタル印度支那ニ關スル現行宣言書ト同一ノ形式ニ依リ両国代表者之ニ調印スルコトト為スヘキコト

(ハ)條約及宣言書何レノ形式ヲ採ルヲ問ハス一及二ニ關スル印支側ノ義務ノミヲ規定スルコト最モ望マシキ所ナ

ルモ片務的形式トナリ先方ニ於テ喜ハサルヘキニ付ニ付テハ双務的トシ我ニ於テ同様ノ義務ヲ負担スルコトシニ付テモ印支生産品ニシテ我ニ於テ税率ヲ輕減シ若クハ現状据置ヲ約シタル品目ヲ列記シ双務的形式ヲ採リ差支ナキコト

(ロ)印支問題交渉ニ際シ或種仏本国品ニ対シ税率ノ輕減ヲ為スニ非レハ商議ヲ纏ムルコト能ハサルカ如キ場合ニ處スル為予メ葡萄酒、「シャムパン」等他国ノ均霑セサル物品ニ付之カ引下ノ可否ニ付研究シ置クコト

(ハ)若シ仏本国品ニ対シ印支ニ於ケル待遇ノ対償トシテ我税率ノ輕減ヲ協定スル場合ニハ印支條約ノ効力消滅ト同時ニ該協定ノ効力ヲ消滅セシメ得ルノ方法ヲ採ルヘキコト

四、印支通過税ノ撤廃、沿岸貿易権ノ獲得、漁業権ノ獲得、土地所有権及鉱山經營権ノ確保、外国人ニ対シ不利ナル印支会社法ノ改正等我希望スル事項數箇アルモ今次ノ交渉ニ於テ之ヲ解決スルコトハ從来交渉ノ経過ニ鑑ミ殆ト妥結ヲ見ルコト不可能ト考ヘラル寧ロ前記一、二、二閑スル事項ノ妥結ニテ満足シ漸次機ヲ見テ我目的ノ達

### 六、會議ノ方法

議事ノ進捗ヲ計ル為細目ニ付テハ双方主任者間ニ少クトモ毎週一回宛位引続キ會議ヲ開キ其ノ結果ニ付双方代表者ノ承認ヲ求ムルノ方法ニ依ルノ望マシキコト

第一五七号  
一三五 五月二十九日 幣原外務大臣ヨリ  
在仏國石井大使宛(電報)  
インドシナ税率交渉問題ニ關シ訓令ノ件

タ開催セラレサルヤ

二、貴電第一三三二号末段本邦提案ニ關スル第一回商議ハ未段「列記以外ノ品目ニ適用ス可キ税率ニ付必要ニ応シ隨時協議スヘシ」云々ハ将来他国トノ条約商議ノ際惡例ヲ貽スヲ避クル為少クモ形式上ハ最惠国待遇ヲ放棄セルニ非サル趣旨ヲ残シ置ク必要上之ヲ挿入シタル次第ニシテ列記以外

ノ品目ニ対シ一括最惠国待遇ノ要求ヲナスコトハ實際上放棄スルモ将来右各品目ニ付税率商議ノ必要ヲ生シタル場合個々ノ品目ニ付更ニ最低税率ヲ要求シ得ル余地ヲモ存シ置度ヲ明ニシ置カレタシ

邦要求表末尾ノ留保アルニセヨ列記以外ノ品目ニ対シ将来商議ノ場合ニモ最低税率適用ノ要求ヲ全部放棄セルカ如ク解セラレサルニモ非サルニ付適當ノ機会ニ於テ右本邦ノ態度ヲ明ニシ置カレタシ

一三六 六月三日 在仏國石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

#### 本邦提案ノ審議結果報告ノ件

付 記 仏領印度支那ニ関スル交渉経過概要（大正十四年十一月以降）

（六月四日接受）

第一九三号 往電第一三二号ニ関シ  
六月二日本邦提案審議ノ為會議開催其ノ結果左ニ

（一）本邦提案ニ仏國側カ實質上同意セルモノ  
税番一七、三五ノ二、三五ノ三、四六ノ二、四九、八四、  
九四、一〇八、一二八

（二）一七二ノ三ビールハ特別税率ヲ廢シ最低八法一般三二法又ハ二四法トスル予定ナル処日本品ニハ最低税率ノ五割増ヲ提供ス

（三）印支税率ヲ一般的ニ改正スル由從テ（一）ノ品目各最低税率ノ增加セラルモノアル可ク先方ノ指摘セル主ナルモノ左ノ通り  
八四、九三、一九〇、三三四乃至三三七  
（四）税率計算方法ハ最低税率ヲ標準トセス仏國法ニ從ヒ一般ト最低トノ差額ノ一定割合ヲ一般税率ヨリ差引ク事ニ同意セリ

内仏本国農業ノ利益ニ反スルニ拘ハラス果物丸太等ニ付テハ日本要求ヲ容レタル代償トシテ仏本国ノ農産物殊ニ葡萄酒ニ付本国トノ通商交渉ニ當リ利益ヲ得ル事ヲ条件トシテ前記讓歩ニ対シ農務省ノ同意ヲ得タル次第ナルニ依リ此点ニ關シ日本政府ノ保障ヲ得タシト述フ  
（五）以上ノ次第二付（三）及内ノ諸点ニ關シ至急御回訓ヲ請フ次回ハ旬日中ニ会合シ先方ニ異議モ多キ綿製品等ヲ審議スル予定ナリ

（付 記）

（一）仏國提案カ我方最終讓歩案以内ナルヲ以テ本使ニ於テ同意セルモノ八六ノ三品目共ニ最低税率ノ一割五分増九三及一九〇ハ最低税率二二一、三三四、三三六、三三七、三四〇ハ最低税率ノ二割増

（二）我方同意ヲ留保セルモノ

（一）一一二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四七ノ二ニ付テハ仏側最低税率ノ二倍ヲ主張ス就中三四三乃至三四六ハ且下印支ニテ土器ヲ生産スルニ依リ現行税率ヲ改正シテ最低ハ法一四法一〇法一八法一般ヲ其ノ四倍トスル予定ナルヲ以テ本邦品ハ一般税率ノ半額ヲ支払フコトトナル又三四七ニ關シテモ特別税率ヲ廢シ本国一般税率ヲ適用スヘシト云フ

（二）一八「生及精製シタル樟脑」ニ付テハ本邦案ニ同意シ得ルモ「人工及合成ノモノ」ハ独逸ニテ生産スルモノ日本ニテ生産スルヲ聞カス本邦案ハ結局独逸ヲ利スルモノナルカ故ニ同意シ得ス

（三）ハ一二六ノ四「リッヒエン」中藥用ニ精製シタルモノハ輸入禁止ナルモ「生ノモノ」ニ付テハ最低税率ヲ与フルニ異議ナシ

#### 仏領印度支那ニ関スル商議経過概要

（大正十四年十一月以降）

印度支那ニ關スル巴里商議ハ客年十一月二十六日ノ（「ブリアン」外相、石井大使、仏國商相、「クローデル」大使、「セルユイス」商務省條約局長）会合以来仏國政界ノ動搖ノ為久シク再会セラレス又同会合ニ於テ「ブリアン」外相ノ斡旋ニ依リ「セルユイス」局長ヨリ石井大使ニ對シ提出スル筈トナリ居リタル居住及航海事項ニ關スル仏國対案モ遷延シ居リタル所大正十四年十二月十七日ニ至リ覚書ヲ以テ

「仏國政府ハ印度支那ニ於テ日本ノ經濟發展ニ便宜ヲ与フル為メ幾多ノ讓歩ヲ為シ先ツ関稅問題ヲ協議セントシタル所在東京代理大使ノ報告ニ依レハ日本政府ハ右提議ヲ承諾セルカ如シ

仏國政府ハ既ニ廢棄ヲ声明セル日仏通商条約ヲ印度支那ニ拡張シ得ス唯貴大使再三ノ申出ヲ斟酌シ且日本當業者カ關稅低減ニ伴ヒ當然期待シ得ヘキ商業發展ニ対シ保障ヲ与ヘント欲シ仏國政府ハ入國後ニ於ケル彼等ノ待遇及海運上ノ便宜ニ關シ商議スルノ準備アリ而シテ是等便宜

及保障供与ノ対償トシテ日本市場ニ於ケル仏本国商品ノ優遇ヲ期待ス」

然レトモ右ハ前頃十一月ノ会合ノ際ノ約束ニ満足ニ応ヘ居ルモノニアラサリシヲ以テ石井大使ハ「ベルトロー」氏ニ面会シ右覚書ノ外尚詳細ナル仏國側対案ヲ期待シ居ル旨ヲ伝ヘタルニ偶々一月下旬ニ至リ仏國商務大臣官房局長「アデル」氏石井大使ヲ來訪シタルニ依リ大使ハ其際右ノ事情ヲ糾シタルニ同氏ハ「セルイス」ハ既ニソノ意見ヲ詳細外務省ニ通報シ同省ヨリ之ヲ石井大使ニ取次キタルモノト信シ居ル旨ヲ答へ恰モ仏當局ハ前頃覚書ニテ事済ミト考ヘ居ルカ如キ感想ヲ与ヘタリ

次イテ二月六日「アデル」氏再ヒ石井大使ヲ來訪シ大使限リ内密ノ含ミトシテ當時商務省ヨリ外務省ニ送レル公文ノ一部ヲ読ミ聞カセタルカ其要旨ハ

「入國後ノ日本人ニ対シテハ第三国人ト均等ノ待遇ヲ与フヘキモ内国民待遇ヲ与ヘ得ス又支那暹羅等ノ接壤国人民ノ享有スル待遇ニモ均霑セシメ得ス日本船舶ニハ埠頭税等全テニ付第三國船舶ト均等ノ取扱ヲ為ス」

### 障ノ規定ヲ加フルコト

ニ付テハ異議ナグ唯仏國側ハ印度支那ニ於テ日本ニ与フル利益ノ対償トシテ

(a) 仏本国通商ニ關シ我国トノ條約締結ニ際シ利益ヲ与フルコトニ付今日ヨリ確約ヲ得タク

(b) 新一般条約締結ニ到ル迄本邦現行関税ヲ増加セサルコト

ヲ要求セリ右ニ對シ我方ハイ関税ニ關シ本邦從来ノ主張ス

ル最惠國主義ヲ捨ツルハ極メテ重大ナル理由アルニアラハ

レハ日本輿論ノ許ササル所ナルニ拘ハラス今回提案ニテ之ヲ捨ツルコト(2)本邦ノ利益ニ對スル対償ハ之ヲ印度支那ノ

多數輸出品ニ与フヘキコトハ仏本国ノ輸出品ニ對シテモ新

条約ノ結果本邦ノミ一方的ニ利益ヲ得ルニ到ルコトアラハ

仏國側要求ヲ審議スヘキコト(2)本邦現行関税不増加ニ付テハ右ハ一般政策上ノ問題ナルヲ以テ約束不可能ナルコト(4)

印度支那条約加入問題ハ此際主張セス居住航海ニ關スル提成セル提案ヲ提出セリ

次回ノ会合ハ右本邦提案ノ基礎ニテ討議スヘシト應酬シ本邦既定ノ方針ニ基キ作成セル提案ヲ提出セリ

ト謂フニアリ尚同氏ハ畢竟日仏通商条約ヲ其儘印度支那ニ適用シ得スト言フハ仏國政府カ日本ニ同条約ニアルカ如キ

入国ニ關シ内國民待遇ノ保障ヲ与フル時ハ印度支那ハ忽チ

日本移民ノ襲来スル所トナルナラントスル一部仏國人ノ感情ニ氣兼ネシ居ルニアリト付言セリ

右ノ如ク仏本国ニ於テモ雖然日本ノ印度支那ニ對スル野心殊ニ日本移民ニ對シ深キ疑惑ヲ懷キ居リ此ノ疑念ハ容易ニ

一掃シ難キ現状ナルニ鑑ミ我國ニ於テ入國問題ヲ主張スル以上本件ニ關スル商議ハ到底妥結ノ見込ナク就テハ今回ハ

本商議ヲ税率並入國後ノ邦人ノ地位ニ關スル問題ニ限定シ後者ニ付テハ日本當業者カ印度支那ニ於テ居住、營業等ニ付印度支那ト特別ノ關係アル接壤國(支那、暹羅等)以外

ノ最惠國待遇ノ保障ヲ取付ケ得ル以上差當リ入國自由ノ問題ニ觸ルルコトナクシテ本件ノ妥結ヲ圖ルニ決シ二月二十七日付ヲ以テ右ノ趣ヲ在仏大使ニ訓令スル處アリタリ

四月十七日本件ニ關スル日仏商議再開セラル同会合ニ於テ仏國側ハ

(一) 今回締結スヘキ条約ハ日、印関税条約トシ  
(二) 右条約ニ入國後ノ日本人ノ居住、營業、航海ニ關スル保

### 次第開催サルルコトトナリ居レリ

其後仏國ノ政情ハ雖然暗憺ヲ極メ何時又内閣ノ瓦解ヲ來タスヤモ測ラレサルニ付本件解決ニ好意ヲ有シ居ル「ブリアン」カ内閣ヲ組織シ居ル此機ニ於テ本件ヲ速カニ結了スルコト最モ機宜ニ適セルヲ惟ヒ五月下旬本問題ニ關スル今後ノ方針ヲ樹立シ(別紙参照)在仏帝国大使館ニ赴任ノ松島書記官ヲシテ之ヲ巴里ニ携行セシメ右ニ基キ本件解決ヲ急クコトトセリ

(大正十五年五月未調査)

編註 五月二十一日幣原外務大臣発在仏國石井大使宛通一機  
密第九三号参照

インドシナ税率協定問題ニツキ文涉方針訓令  
ノ件

貴電第一九三号ニ關シ

(一) 妥結ヲ見サル品目ニ付テハ目下關係省ト折角協議中ナル  
モ此際余リニ先方ノ讓歩ヲ主張スルニ於テハ肝心ノ綿糸

布綢織物等ニ付譲歩ヲ余儀ナクセラルノ惧アルニ付差

当リ右綿糸布等ニ関スル先方ノ態度ヲ見極メタル上當方

ノ態度ヲ決スルコトシタク尚葡萄酒ニ關シテモ往電第

四二号四ノ理由モアリ時機尚早ト認メラルニ付此際ハ

何等明確ナル保障ヲ与ヘサルコトト致度シ

(二)右貴電(五)ニ付テハ本邦要求ノ税率算出基礎ハ大体ニ於テ

印支ニ於テ最低税率ヲ受クル国トノ地理的関係ニ依リ該

國ヨリノ運賃等ヲ考慮ニ加ヘ之ヲ決定シタルモノニシテ

我案ハ事實上之等諸國ト印支ニ於テ競争ヲ為シ得ル最大

限度ノ讓歩案ナル処一九一九年七月二十九日ノ法律ノ計

算方法ヲ採用スルニ於テハ将来印支ニ於テ一般税率ノ引

上アリタル際ハ最低税率ヲ受クル国ハ何等ノ影響ヲ蒙ラ

サルニ拘ラス本邦品ノミ其影響ヲ蒙リ事實上此等諸國ト

競争ヲ為シ得サルコトナリ今日折角税率ヲ協定スルモ

殆ト其甲斐無キコトトナルノ惧アルニ付右ニ關シ先方ノ

主張ヲ在ケシムルハ困難ナリトハ思考スルモ一九二三年

五月仏白及一九二五年三月仏葡間ノ通商條約中ノ關稅ニ

關稅規定等ニ顧ミ前記法律ハ必シシモ全然例外ヲ許サ

サルニ非ストモ思考セラルニ付計算ノ基礎ヲ最低税率

(一)往電第一六七号ノ(一)妥結ヲ見サリシ各品目ニ付テハ我最

終讓歩案トシテ左ノ通決定ヲ見タルトコロ右ハ同電所載

ノ事情モアルニ付綿糸布等ニ對スル先方ノ態度ヲ見極メ

タル適當ノ機會ニ於テ要求スルコト致度シ一一二、我

方第二案ヲ主張スルコト三四三、三四四、三四五及三四

六、今一応我第二案ヲ主張シ先方ニ於テ同意セサルニ於

テハ現行印支税率ノ引上ノ場合印支生産品ト競争ノ見込

ナキヲ以テ今回ハ税率ノ協定ヲ拠棄シ後日ノ協定ニ譲ル

コト三四七、ニ付テハ少クトモ最低税率ヲ取付クルコト

三四七ノ二、第一案ヲ主張スルコト一一八、仏國対案ニ

同意スルコト一二六ノ四ハ寒天ノ為要求シタルモノナル

ニ付寒天ハ一二六ノ四ニ該當ストノ解釈ヲ取付クルコト

右解釈ニ付反対アルニ於テハ寒天ハ如何ナル税番ニ入ル

ヤヲ確メタル上其最低税率ヲ要求スルコト一七二ノ二、

税額ヨリ見レハ仏國対案ハ我方要求ノ通ナルモ我方要求  
ノ趣旨ハ結局最低税率ヲ取付クルニアルヲ以テ第二案ヲ

主張スルコト  
(二)税番四六ノ「其ノ他」ニ付シテハ税率ヲ協定シタル次第  
ナリヤ

本件ニ關スル第二回商議ハ未夕開催セラレサルヤ

一三九 七月三日 在仏國石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

フランス商務省ニ於ケル日仏專門委員会ノ議

事内容報告ノ件

第二三二号 (七月四日接受)

往電第一九三号ニ關シ

七月二日商務省ニ於テ彼我専門委員会合硝子製品(三五〇  
以下)綿糸ニ就キ意見ヲ交換ス

(一)前記品目ニ關シ印支ニ新税率ヲ適用スル筈ニシテ右新税率ハ大体本国稅ト同シク一般税率ハ最低税率ノ四倍ナリ

而シテ此次交渉ニ當リ基礎トセラル新税率ハ總テ今回ノ日印支協定成立ト同時ニ実施スル由

(二)仏國側ノ提供スル税率ハ税番三五〇、三五一ハ最低税率ノ大体七割五分増、三五九、三五九ノ一、同シク二、同シク三、同シク四ハ最低税率ノ五割増ニシテ三六一ハ仏貨暴落ノ割合ニ係數ノ小ナルニ顧ミ最低税率ノ二倍半ヲ

要求セサルヲ得スト述フ又食卓用硝子、窓硝子、瓶等ニ  
關シテ右等工業力既ニ印支ノ重要工業タラントシツツ有

トルコトニ付先方ノ同意取付方御尽力アリ度  
右ニ付飽ク迄先方ニ於テ同意ヲ肯セサルニ於テハ我最終  
讓歩案トシテ原則トシテハ仏國法ニ依ル計算法ヲ承認ス  
ルモ別ニ規定ス可キ品目(我国ト税率ヲ協定セル品目中  
特ニ重要ナルモノヲ選フ)ニ付テハ将来一般税率ノ引  
クル第三国アルモノヲ選フ)ニ付テハ将来一般税率ノ引  
上ケアリタル際今日我国ト協定スル税率ヲ其儘据置カシ  
ムルコトシ度ク唯右趣旨ヲ其儘規定スルニ於テ  
上仏國側ニ於テ喜ハサルヘキニ付左記規定ニ付先方ノ同  
意ヲ取付ケラレタシ別ニ記載ノ品目ニ付将来印支ニ於テ  
國定税率ノ変更アリタル場合ニ於テ一九一九年七月二十一  
九日ノ法律ノ方法ニ依リ算出シタルモノト最低税率トノ  
差額カ今回我國カ協定スル税率ト現行最低税率トノ差額  
以上ニ達スルトキハ右差額ヲ今回協定スル税率ト現行最  
低税率トノ差額迄引き下クルコトトス

第一七九号

一三八 六月三十日 幣原外務大臣ヨリ  
在仏國石井大使宛(電報)

インドシナ税率協定問題ニ關シ追加訓令ノ件

ルニ不拘前記ノ提示ヲ為セルハ仏國側ノ大ナル讓歩ナリ  
ト主張セリ尚三六二ハ仏國側留保セリ

(三)綿糸ニ関シテハ目下ノ類別法ヲ改メ一既ニ付四一、〇〇  
〇米以下六一、〇〇〇米以下一〇一、〇〇〇米以下二〇  
一、〇〇〇米以下等ニ別チ現在ヨリハ項目ヲ減シ日本品  
ニ関シテハ二〇一、〇〇〇米以下ノモノニ就キ最低税率  
ノ二倍ヲ提供ス

右ハ「アルサス」特產品(税番三六九)等本国品ニ影響  
有ルノミナラス印支ニ於ケル綿糸工業ヲ脅カスモノナル  
ニ顧ミ日本代表ハ仏國提案ニ大ニ満足セラル事ト信ス  
ト述ヘタルヲ以テ我方トシテハ英國等トノ競争ニ堪ヘン  
事ヲ求ムルモノナルカ印支工業ノ保護ニハ最低税率ヲ上  
クレハ可ナルヘク本邦品ニ競争國以上ノ高率ヲ課スルハ  
其ノ意ヲ得スト酬ヒタルニ「セルイス」ハ現状ニ於テモ  
印支輸入綿糸ノ九割ハ日本品ニシテ日本品ノ本国相場ノ  
英國品ヨリ低キ事又運賃其他ノ關係ヨリ日本品カ最低税率  
ノ二倍ヲ支払フモヨク英國品トノ競争ニ堪ユ可シ尚最  
低税率ハ英白等ノ競争ニ対シ印支工業ヲ保護シ得ルモ日  
本ノ競争ニ対シテハ然ラスト答ヘタリ

## 第一八九号

貴電第二三二号ニ閲シ

(一)ノ中「今次交渉ニ当リ基礎トセラルル新税率」トアルハ  
将来印支ニ於テ最低一般両税率ノ引上ケアルヲ見越シ未タ  
右カ公布セラレサルニ拘ラス右新最低税率ヲ根拠トシテ我  
協定税率ヲ算出スルノ趣旨ナリヤ若シ然リトセハ右貴電列  
記ノ品目ノ新最低税率(四段末件ト共ニ回電アリタシ

一四一 七月二十三日 在仏國石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)  
仮側提案ノ新税率ニ閲スル件  
(七月二十四日接受)

## 第二五四号

貴電第一八九号ニ閲シ仮側提案ハ日仏協定成立ト共ニ実施  
ノ筈ナル新税率ヲ基礎トスルモノナルカ各品目ニ就テノ詳  
細ハ往電第二三二号(四)末段ノ書類ノ到着ヲ待テ申進ム  
ヘク尚右書類ハ次回専門家會議開催ノ件ト共ニ當方ヨリ屢  
々催促セルモ今ニ何等ノ通報ナク遲延ノ理由ハ國際休日政  
變等ニ依ルモノト存スルモ尊ニ依レハ本国税率ヲ植民地ニ  
適用スルコトニ閲シ商務省ト植民省間ニ意見折合ハサル為  
ナリトモ云フ

四本日ハ右仏國側ノ提案ハ聞クニ止メ貴電第一七九号御申  
越ノ次第ハ何等言及セサリシカ仏國ハ今回ノ提案ヲ以テ  
最後ノ讓歩案ナリト述ヘ態度甚々強硬ナリシノミナラス  
我方カ現行税率ヲ基礎トセルニ仏國側ハ日印協定成立ト  
同時ニ一般的ニ税率ハ改正シ原則トシテ仏國本国税率ヲ  
適用セントスル次第ナルニ顧ミ今回仏國側提案ニ付テハ  
充分御考慮ノ上何分ノ儀御回訓相成度ク尚先方提案ノ詳  
細ニ付テハ二三日中ニ書類ヲ以テ「コンファーム」シ來  
ル筈ニ付其ノ上ニテ更ニ申進スヘシ

(五)貴電第一六七号ノ(二)ニ閲シ御懸念ノ次第ヲ述ヘタル処先  
方ハ事實上其ノ事ハアリ得サルノミナラス一般税率ト最  
低税率トノ差額大ニシテ税率ヲ重カラシメサル趣旨ヲ条约  
ニ挿入スルコトニ異議ナシト述ヘタリ

(内)貴電第一七九号(二)四六、其他ハ「鮫鱗及(ヒシコ)族ノ  
モノ」ヲ廢シテ之ニ含マシメ一般五〇法最低二五法日本  
品ニ八法七五ナリ

一四〇 七月十日 币原外務大臣ヨリ  
在仏國石井大使宛(電報)  
インドシナ税率協定問題ニ閲シ問合セノ件  
インドシナ税率協定問題ニ閲シ問合セノ件

## 第一一〇号

貴電第二五四号ニ閲シ

我要求品目ニ閲スル税率算出ノ基礎ハ往電第一六七号ニ於  
テ述ヘタルカ如ク印支ニ於テ最低税率ノ適用ヲ受クル第三  
国トノ対抗上現行最低税率ヲ基礎トシ右第三国ノ生産条件  
並之ヨリ印支ニ至ル運賃等ヲ考慮シ算出シタルモノニシテ  
右我要求税率ト現行最低税率トノ差額ハ我ニ於テ第三国ニ  
対抗シ得ル最大限度ノ讓歩案ナル處最近印支ニ於テハ最  
低、一般両税率ノ三割引上ケアリタル結果(貴電第二四三号  
及在海防領事來電第一四号)我要求税率ニ依リ算出セラレ  
タル税額ト最低税率トノ差額ハ右我要求税率案作成當時ニ  
比シ三割增加シタルニ拘ラス今回又若シ更ニ我要求品ニ對  
スル税率決定ノ根拠ヲ近ク引上ケラル可キ新最低税率ニ置

クモノトセハ機密責信第二七四号ヲ以テ先方ニ提出シタル  
(省略)

我要求稅率ニ依リ算出セラルル稅額ト新最低稅率トノ差額  
ハ現行最低稅率ヲ根拠トシテ右貴信ヲ以テ要求シタル稅率  
ニ依リ算出セラルル稅額ト現行最低稅率トノ差額以上ニ遙

ニ大トナリ折角第三國ト競争シ得ルカ為稅率ヲ協定セムト  
スル我希望ハ實質上殆ト水泡ニ帰スル次第ナリ

就テハ今回商議ニ當リテハ現行最低稅率ニ對スル百分比ヲ  
以テ稅額ヲ協定シ置クコトトシ條約締結ノ際ニハ右協定セ  
ラレタル稅額ヲ一九一九年ノ法律ニ依リ算出シタル一定歩  
合ニ依リ表示スルト同時ニ今回協定スル品目全部ニ對シ往  
電第一六七号末段ノ規定適用方ニ付予メ今日ヨリ先方ノ同  
意ヲ取付ケ置カレ今回現行最低稅率ヲ基礎トシテ協定スル  
稅額ト現行最低稅率トノ差額ハ将来印支ニ於テ稅率ノ変更  
ヲ見タル場合ニモ其儘之ヲ維持セシム可キコトトシ度ク右  
主張貫徹方ニ付貴官ノ御尽力ヲ切望スル次第ナリ

## (付記)

大正十四年八月十二日關係省係官會議決定

インドシナ閔稅問題交渉方針

仮領印度支那閔稅問題交渉方針

(大正十四年八月十二日 関係省係官會議決定)  
一、大正十三年五月東京ニ於ケル非公式商議ニ於テ討議ヲ留保セナレサ  
リシモノナルトキハ大体ニ於テ仮領印度支那ニ於テ作成セ  
セル會議錄第二欄(第二欄ナキモノハ第一欄)記載ノ稅  
率ニ近キ程度ニ於テ妥協シ差支ナキコト

三、又該物品カ前記仮領印度支那ニ於ケル非公式商議ノ際  
討議ヲ留保セラレタルモノナルトキハ左ノ程度ニ於テ妥  
協シ差支ナキコト

(1)綿織物、九「キログラム」ヲ超ユルモノニ付テハ印度  
支那現行一般稅率ヨリ一〇乃至一五%引其他ニ對シテ  
ハ最低稅率ノ二〇%増ニ近キ程度ニ妥協シ差支ナキコ  
ト

(2)綿織物以外ノ留保セラレタル物品即チ「アルミニュー  
ム」製品(稅番五七九ノ二)

「モロッコ」皮製品(稅番四九一)

各種ノ方法ニ依リ鍍金銀シタル物品及純「ニッケル」  
製品又ハ「ニッケル」ヲ鍍シタル製品(稅番四九六)  
模造装身具(稅番四九六ノ二)  
置時計及掛時計(稅番五〇四ノ二)  
葉状又ハ線状護謨ヲ除ク總テノ護謨又ハ「ガタバルチ  
ヤ」製物品ニシテ印度支那ニ於テ製セラレサルモノ  
間物類ニシテ別号ニ掲ケサルモノ(稅番六四〇ノ四)  
綿張傘(稅番六五二ノ内)

鉛筆(稅番三〇一)

薰香ヲ付セサル石鹼(稅番三一一)

罐詰鹽漬又ハ其他ノ方法ニテ調理セラレタル魚類、塩  
漬牡蠣(稅番四七及四八ノ内)

薄荷脑(油ヲ含ム)(稅番一一二)

化學製品(特殊稅番ヲ有ス)

調製シタル染料(稅番二九七)

兎毛製又ハ兔毛羊毛製「フェルト」製帽子(稅番六二

六)

羊毛製帽子(稅番六二七)

ニ付テハ當該物品ノ現行印度支那一般稅率カ仮本国ノ一般稅率ヲ採用セルモノナルトキハ仮本国ノ旧一般稅率ノ程度ニ又現ニ仮本国ノ旧一般稅率ナル時ハ之ヨリ其ノ一〇乃至一五%ノ程度ニ於テ妥協シ差支ナキコト  
四、前記一二及三、記載ノ程度ニ於テ妥協差支アル物品ニ付テハ關係省担当技術官協議會ヲ開キ當該物品ニ閔スル我讓歩ノ限度ヲ研究シ次回關係官會議ニ報告スルコト  
五、前記二、記載ノ會議錄列記以外ノ物品ニ付テハ一般的邦ニ於テモ最惠國待遇ヲ与フヘキ印度支那品ヲ局限スルト共ニ條約上保障ナキ物品ニ付テハ必要アル場合隨時特コトトルコト

六、印度支那ニ於ケル本邦品ニ對スル稅率協定ノ対償トシテ或種仮本国生産物ニ對シ我輸入稅ノ輕減ヲ申出タル時ハ本邦產業上及財政上支障ナキ限り考慮スルコト

七、印度支那品ニ對シ我方ニ於テ稅率ヲ引下クヘキ品目及其ノ程度ハ本年三月印度支那ニ於テ作成シタル會議錄記載ノ程度ニ於テ同意シ差支ナキコト右會議ニ於テ引下及

四 日仏通商航海条約改定交渉 一四三

一五六

其稅度ヲ留保セラレ居ルモノニ付テハ前記四ノ技術官協議会ニ於テ之ヲ研究シ次回係官會議ニ報告スルコト

ニ依リ何トカ局面展開ヲ策シ度キ所存ナルニ就テハ右ニ闇

一四三 十月一日 幣原外務大臣ヨリ  
在仏国石井大使宛（電報）

第一回貿易會議ニ於ケル彼我交渉ニ闇シ各方  
面ノ希望モアリ一層ノ尽力方要請ノ件

付記 仏領印度支那ニ闇スル日仏商議近況  
(大正十五年九月二十一日作成)

第二五五号

今般開催ノ第一回貿易會議ニ於テ印支問題解決促進方ニ闇シ凡ユル機會ニ民間側ヨリ切実ナル希望申出アリ即本會議ニ参加セル東京横浜大阪神戸名古屋及京都ノ六大商業會議所ハ其ノ合同決議ヲ以テ本件ノ解決促進ヲ要望セルノミナラス南洋協會及印度支那協會ノ代表者モ痛切ニ之力急速解決ノ要ヲ述ヘ出席者ノ殆ト全部亦之ニ裏書セル有様ニテ中ニハ政府ノ措置ヲ緩慢ナリト攻撃スル者有リ之ニ對シ當時係官ヨリ可然弁明シ置キタル處此際税率問題丈ニテモ何トカ急速目鼻ヲ付ケ置カサル限り本邦世論ノ不満ハ益々温醸セラルルノ徵候アルヲ認メラル仏国政府ハ目下重大ナル内

政問題ニ直面シ居リ本件ノ急速解決ノ困難ナル事情アルハ當方ニ於テモ篤ト諒察シ居ル次第ナルモ閣下一層ノ御努力ニ依リ何トカ局面展開ヲ策シ度キ所存ナルニ就テハ右ニ闇スル閣下ノ御見込並御氣付ノ点等折返シ回電アリタシ

（付記）

仏領印度支那ニ闇スル日仏商議近況（大正十五年九月

二十一日作成）

仏領印度支那ニ闇スル日仏商議ハ本年四月十七日我ヨリ印支ニ於ケル税率ノ協定ヲ要求シタル約百二十品目ニ付協議ヲ遂クルコトトナリタルカ仏国側ニ於テハ政情安定セス上下挙ケテ内政問題殊ニ財政問題ニ没頭シ外交問題ニ対シテハ緊急ヲ要スルモノノ外ハ之ヲ顧ルノ暇ナキモノノ如ク殊ニ本件商議ノ如ク仏国側ヨリ我ニ与フル処ノミ多ク我ヨリ得ル處少キ商議ニ対シテハ頗ル冷淡ナルモノノ如ク石井大使ノ本件商議促進方ニ闇スル再三ノ申出ニ対シテモ其都度表面上適當ナル辞柄ヲ設ケ實際上ハ頗ル誠意ナキモノノ如シ最近ニ於ケル印支ニ闇スル日仏商議ノ経過左ノ如シ

(1) 我要求品目ニ闇スル商議ノ状況

触レサルコトトシ度旨回電ヲ発シタリ

第二回商議ハ七月二日開催セラレ硝製品以下今回ノ要求中我ニ於テ最モ重視シツツアル綿糸ニ付意見ノ交換アリタルカ先方ハ近ク印度支那ニ於テ一般及最低兩税率ノ引上ヶ計画アルニ依リ右綿糸ニ付テハ最低税率ノ二倍（我要求案ニ付テハ最低税率ノ二割ナリ）ヲ主張シ来タレリ

然ル處我各品目ニ対スル要求税率算出ノ基礎ハ仏領印度支那ニ於テ最低税率ノ適用ヲ受ケル第三國ト我国トノ地位ヲ事實上平等ニ置クノ見地ヨリ我國ノ輸出品ノ負担スヘキ税率ハ印支現行最低税率ニ右第三國ト我国トノ生産条件並ニ印支ニ至ル運賃ノ相違等ヲ考慮ノ上算出シタルモノナルニ付将来ニ於ケル印支ノ税率ノ引上ヶハ我要求税率算出ノ基礎ニ重大ナル動搖ヲ來タス所以ニシテ既ニ商議ヲ開始シタル今日仏国側ニ於テ突如トシテ右税率ノ引上ケフナスカ如キハ國際信義上甚々遺憾ナルコトナルカ右ニ付テハ別ニ方法ヲ講スルコトトシ（税率協定ニ闇スル形式商議経過參照）差当リ我要求税率算出ノ基礎タルヘキ将来印支ニ於テ決定セラルヘキ綿糸ニ対スル最低税率如何ヲ確ムルヲ先決要素トシテ右問合セ方在仏大使ニ訓令ヲ發シタリ

スル等出来得ル限り我要求ヲ輕減スルコトトシ右趣在仏大使ニ訓令ヲ發スルト同時ニ先方主張ノ葡萄酒ニ対シテハ結局ニ於テ其税率輕減方異存ナキモ懸引上差当リ本問題ニ付

四 日仏通商航海条約改定交渉 一四三

一五七

然ルニ其後仏国ニ於テハ「ブリアン」「エリオ」内閣等ノ倒壊トナリ政情安定ヲ見ス石井大使ノ再三ノ督促ニモ拘ラス本件商議ハ其儘進捗ヲ見サルノミナラス右石井大使ノ問合セニ対シテモ何等回答ナキ次第ナリ

## 〔二〕税率協定ニ関スル形式商議経過

我要求品目ニ関スル税率算出ノ基礎ハ前述ノ如ク印支ニ於テ最低税率ノ適用ヲ受ケル第三国ト我国トノ地位ヲ事實上平等ニ置クノ見地ヨリ我国ヨリ輸出品ノ負担スヘキ税率ハ印支現行最低税率ニ右第三国ト我国トノ生産条件並ニ印支ニ至ル運賃ノ相違等考慮ノ上算出シタル次第ナルカ我国ハ最初税率協定ノ形式トシテハ條約中ニ印支ニ於ケル現行最低税率ノ一定歩合ノ割増ヲ記載シ度キ意向ヲ有シタリ蓋シ印支ニ於テハ一般税率ハ屢々其引上ケアリタルニ拘ラス最低税率ハ一八九二年以来殆ト引上ケナク税率算定ノ基礎トシテ一般税率ニ比シ安定ナリシヲ以テナリ然ルニ其後ノ交渉ニ依リ最低税率ヲ基礎トシテ税率ヲ協定セムトスル我希望ハ仏国側ニ於テ希望セサルコト判明シ同国ニ於テハ一九年七月二十九日ノ法律ニ依リ印支ニ於テ總テノ税率ノ協定ハ最低税率ヲ標準トセス一般税率ト最低税率トノ差額ノ

ラス前述ノ如ク我が國ノ今回協定セムトスル税率ヲ近ク改正セラルヘキ印支ニ於ケル最低税率ヲ基礎トシテ算出シ條約調印ノ際ニハ之ヲ一九一九年ノ仏国法ノ方式ニ依リ表示セムコトヲ主張シ居ル趣ナルカ若シ右仏国側主張ヲ受諾スルニ於テハ先ツ将来引上ケラル可キ最低税率ヲ基礎トシテ我が國ノ受クヘキ税率ヲ協定スルモノナルニ付囊ニ本年四月現行印支最低税率ヲ基礎トシテ其何割増云々ヲ以テ要求シタ

ル品目ニ対スル税額ハ右要求品目ニ対スル税額算定ノ當時ニ比シ最低税率トノ差額増額ス可クスケテハ第三国トノ対抗上折角税率ヲ協定セムトスルモ殆ント其甲斐ナキニ至ル次第ナリ

茲ニ於テ当方ニ於テハ其対策折角考慮中ナリシカ八月七日在仏大使ニ対シ「今回商議ニ当リテハ印支ニ於ケル現行最低税率ニ対スル百分比ヲ以テ税額ヲ協定シ置クコトトシ約締結ノ際ニハ右協定セラレタル税額ヲ一九一九年ノ仏国法ニ依リ算出シタル一定歩合ニ依リ表示スルト同時ニ今回協定スル品目全部ニ対シ囊ニ我方ヨリ提出シタル税率協定ノ方形ニ閥スル我対案ノ規定適用方ニ付予メ今日ヨリ先方ノ同意ヲ取付ケ置カレ度キ旨」電訓ヲ発シタルカ其後ハ上

一定歩合ヲ一般税率ヨリ差引クコトニ依リ表示スルコトニ規定セルニ付此規定ヲ基礎トシ商議セントコトヲ主張シタリ然ルニ右仏国案ニ依ルトキハ例ハ将来印支ニ於テ一般税率ノミノ引上ケアリタル場合ニハ我協定税率品ニ対スル輸入税ト最低税率トノ差額ハ右我品目ニ対スル現行輸入税ト現行最低税率トノ差額以上ニ大トナリ上述ノ如ク第三国ヨリノ印支ニ至ル運賃等ヲ考慮シテ算出シタル我協定ノ希望率ハ事實上最低税率ヲ受クル第三国ノ物品ノ負担ニ比シ不利トナリ競争シ得サルコトトナルノ惧アリ

茲ニ於テ我国ハ右緩和ノ方法トシテ一面右仏国側ノ計算方式ヲ受諾スルト共ニ條約中ニ左記規定ヲ挿入方主張シタリ別ニ記載ノ品目ニ付将来印支ニ於テ固定税率ノ変更アリタル場合ニ於テ一九二九年七月二十九日ノ法律所定ノ方法ニ依リ算出シタルモノト最低税率トノ差額カ今回我が國協定スル税率ト現行最低税率トノ差額以上ニ達スル時ハ右差額ヲ今回協定スル税率ト現行最低税率トノ差額迄引下クルコトス

右我対案ニ関シテハ未タ仏国側ノ確答ナキ處仏国ニ於テハ過般印支ニ於ケル一般最低両税率ヲ三割引上ケタルノミナ

ル次第ナリ

一四四 十月二日 在仏国石井大使（電報）  
外相及ビ商務相ニ対シ交渉促進方要望シタル  
旨報告ノ件

第三一九号

（十月三日接受）

仏国外相府ヲ去ル前本使ハ同氏ニ対シ日印支問題ニ付「セルイス」氏カ談判開始ノ際ニ於テ談判進行中ハ日本ノ税率ヲ動カササル様希望シ置キ乍ラ税率談判ニ入ルニ際シテハ仏国政府ハ母国一般税率ヲ印支ニ施行セントスルノ意アル事即チ現行印支税率ヨリハ四倍ノ高率ニ増加セントスルノ意アルヲ予告シタルハ我政府ヲシテ前後ノ矛盾ニ驚カシタル事及其後談判ハ遷延ニ重ヌルニ遷延ヲ以テシ吾人ヲシテ仏国側ニ果シテ日印協定ヲ遂クルノ誠意アルヤフ疑ハシムルニ到ルモノアル事ヲ腹藏ナク吐露シ置キタリ右ハ館長符号貴電ニ接スル數日前ノ事ナリ「ブリアン」氏ハ多少緩和サレタル氣味ニテ帰巴後早速関係省ト相談シテ議ヲ進ムル事トスヘキニ付本使帰巴後直ニ会見シタク兎ニ

四 日仏通商航海条約改定交渉 一四五 一四六

一六〇

角仏国政府カ印度支那貿易ニ関シ日本ト協定ニ達シタキ誠意アルハ自分ノ誓ツテ断言スル處ナリトノ挨拶アリタル今

二日本使「ブ」氏ヲ往訪セルニ「ブ」氏ハ帰巴後商務大臣ニ懇談シ置キ同大臣ハ本使ト直接会談シタシトノ意向ニ付

会見アリタシト述ヘ其場ニテ商務大臣ニ電話ヲカケ本使トノ会見ヲ午後六時定メ吳レタリ

定刻商務大臣ヲ往訪シタルニ同大臣ハ就任後本件ヲ深ク研究スル余暇無カリシトテ本使ノ説明ヲ求メタルニ付本使ハ

一九二〇年以来ノ経過ヲ述ヘタルニ委細承知セリ之ヨリ自分自ラ研究シ度キニ付数日ノ猶余ヲ請ヒ度ク自分モ「ブリ

アン」外相ト等シク日仏国交ノ大局ヨリ速ニ本問題ヲ解決シ度キ決心ナルコトヲ御諒承アリタシト挨拶シタル上独逸

ヲ始メ歐州諸国トノ談判ナレハ我カ商務省独リニテ進ミ得ルモ印度支那ノ問題ニ付テハ植民省側喧シク之本問題ノ延

引ノ唯一ノ原因ナルヲ御諒解アリタシト付言セリ

本使ハ數日ノ猶予ヲ承諾シテ引取レルモ本使ノ觀察ニ依レ

ハ從来ノ延引ノ原因ハ植、商兩省ノ衝突ニアリタルハ事實ナルモ所謂八釜敷屋ハ植民省ニアラスシテ却テ商務省殊ニ

「セルオース」局長ニアリシカ如シ右ノ事情ニ付印支問題結

了ノ時機ハ未タ予見スル能ハス

一四五 十月十八日 勝原外務大臣ヨリ  
在仏國石井大使宛（電報）

商務相トノ会談及ビ同会談ニ基づク交渉促進

ニ関スル意見報告方指示ノ件

第二六七号

貴電第三一九号ニ閲シ

商務大臣トノ会談並右会談ニ基キ本件商議促進方ニ付何等御意見アラハ折返電報アリタシ

一四六 十月十九日 在仏國石井大使

勝原外務大臣宛（電報）

ブリアン外相トノ会談ニヨリ商務大臣ノ意向

確認ノ件

第三三六号

（十月二十日接受）

貴電第二六七号ニ閲シ

商務大臣ハ其後地方出張勝ニテ未タ何トモ申來ラサルモ過

日本使カ「ブリアン」ニ会談ノ節ニ商務大臣ハ外相ニ対シ本使ト第一回会談ニテ有益ナル説明ヲ聽キタルニ付自分親

方ヨリ通報アリタル件

第三六八号 (十一月十四日接受)

往電第三五五号ニ閲シ其後再三督促中ノ処「セリュイス」獨逸ヨリ帰来後再ヒ寿府經濟會議ニ出席等ノ事情ノ為会合延引ヲ重ネタルカ來ル二十七日商務省ニ於テ印支問題ノ商議開会シ度キ旨十三日外務省ヨリ電話シ來タレリ

一四八 十一月二十七日 在仏國石井大使ヨリ  
勝原外務大臣宛（電報）

商務省ニ於ケル日仏専門家会談ノ状況報告ノ件

第三八一号 (十一月二十八日接受)

往電第三六八号ニ閲シ

二十七日商務省ニテ彼我専門家会合「セリュイス」ハ先ツ

キ旨答ヘタリ

四 日仏通商航海条約改定交渉 一四七 一四八

一六一

更ニ「セリュイス」ハ友誼的ニ申度次第有リトテ自分ハ本件交渉ニ関シ仏国民間ノ利害關係者ノ同意ヲ取付クル為最モ苦心シ居リ此ノ協定ノ結果仏國ハ日本ヨリ得ヘキ対償無ク従テ一般輿論ハ常ニ吾人ニ反対ナルヲ以テ協定ノ成立ヲ見ルカ為ニハ本邦側ニ於テ充分右ノ点ヲ考慮シ仏國案ニ対シナルヘク讓歩的対案ヲ提出セラレタク最初ノ本邦提案ハ曩ニ印度支那ニ於テ日本委員ノ要求セル處以上ニ出テ今若シ之ヲ直ニ仏國利害關係者ニ示ス時ハ忽チニシテ商議中絶ノ已ムナキニ至ルヘシト述ヘ外務省係官モ之ニ和シテ外務省カ本件協定ノ成立ヲ切望シ居ル次第ハ御承知ノ通ナル處仏國側ノ事情ハ「セリュイス」氏カ只今陳述シタル通ニテ日本側ノ提案ヲ一層仏國案ニ接近セシメラレサレハ本件協定ノ成立ニ付憂慮ニ堪ヘスト申添ヘタルヲ以テ當方ハ本邦最初ノ提案カ印度支那ニ於ケル外交ト異ナルハ採算上ノ關係ニ基クモノニシテ又本件協定成立ノ曉仏國側ハ何等利益ヲ受ケスト云ハルモ協定実現ノ結果案外印度支那ノ受クル利益ハ大ナルヘシト報ヒ置キタリ

(二)「セリュイス」ハ新開稅案ニ依リ關稅ノ安定ヲ得ヘキヲ以テ今回ノ協定ハ比較的長期間有効タラシムル事ヲ得ヘ  
シナルヘク讓歩的対案ヲ提出セラレタク最初ノ本邦提案ハ曩ニ印度支那ニ於テ日本委員ノ要求セル處以上ニ出テ今若シ之ヲ直ニ仏國利害關係者ニ示ス時ハ忽チニシテ商議中絶ノ已ムナキニ至ルヘシト述ヘ外務省係官モ之ニ和シテ外務省カ本件協定ノ成立ヲ切望シ居ル次第ハ御承知ノ通ナル處仏國側ノ事情ハ「セリュイス」氏カ只今陳述シタル通ニテ日本側ノ提案ヲ一層仏國案ニ接近セシメラレサレハ本件協定ノ成立ニ付憂慮ニ堪ヘスト申添ヘタルヲ以テ當方ハ本邦最初ノ提案カ印度支那ニ於ケル外交ト異ナルハ採算上ノ關係ニ基クモノニシテ又本件協定成立ノ曉仏國側ハ何等利益ヲ受ケスト云ハルモ協定実現ノ結果案外印度支那ノ受クル利益ハ大ナルヘシト報ヒ置キタリ

(三)今回協定ト関連シ日印間直接貿易ニ関シ仏國側専門家ヨリ説明シ度次第アル趣ニテ來週「キルセイ」仏國対案ヲ當館ニ持參旁右ノ説明ヲ為ス筈ナリ

(四)直接貿易ノ問題ニ引掛け通過税ノ件ヲ持出シタル處通過税ヲ當該國商品ノ支払フ輸入税ノ二割トスル事ハ印支ノ法制ニシテ之ヲ変更スル事困難ナルノミナラス若シ日本ニ通過税ノ額ニ関スル最惠國待遇ヲ与フル時ハ早晚中間

税率ヲモ協定セサル香港ニモ之ヲ与ヘサルヲ得サルヘク其ノ結果ハ却テ日本ニ不利益ナルヘシト說明シ置キタリ(五)前規定末段先方陳述ノ次第モ有リ其ノ他全般ノ事情ヨリ準シテ此ノ機会ニ於テ多少ナリトモ現在待遇ヲ改善スル為妥協ノ成立ヲ計ル事累次御訓電ノ趣旨ニモ顧ミ最肝要ト存セラル處仏國対案入手次第當方ノ意見ト共ニ電報スヘキニ付以上ノ趣旨ニテ御詮議ノ上至急御回訓アル様致シタシ次回ハ十二月七日午前十時ト約シ置キタリ

本日会合ノ出席者仏國側「セリュイス」「キルセイ」外務省員當方松島、三谷、松島、本野

一四九 十二月十一日 在仏國松島臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

#### キルシェー関稅局長ニ對シ仏國側提案督促ノ件

第四一二号

(十二月十二日接受)

往電第三八一号ニ關シ「キルシェー」約束通り仏國側提案ヲ持參セサルニ付再三督促セル處或ハ淨書未了トカ或ハ二三未確定ノ点有リトカ種々言訳ヲ云ヒ二三日中ニハ必ス持參スヘシト口約束ヲ繰返シ居ルカ最近ニハ目下帰巴中ノ印支總督ト更ニ相談ノ為十四日植民省ニテ會合アルニ依リ其ノ上ニテ當館ニ來談スヘシト答ヘタリ

連盟全權ヘ転電セリ

一五〇 十二月十八日 在仏國石井大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

#### 新インドシナ稅率ニ關シキルシェー關稅局長

次ニ今回日本品ニ与フヘキ待遇ハ日本ヨリ印支迄同一日本又ハ仏國船舶ニ依リ途中積換ヲセス輸送スルコトヲ必要トスルカ通船荷証券ヲ有スルモノハ同一船舶ニ非ルモ同一会社ノ他船舶ニ積換タル場合ハ直接輸送ト見做シ得可シト語レリ